

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。 校訓「至誠剛健」(誠実で心身ともに逞しく)	○「ものづくり」から「者(ひと)づくり」そして「未来(あす)づくり」 ア 規律ある高校生活の定着 イ ものづくり教育の推進 ウ 部活動の充実 エ 開かれた学校づくりの推進

達成

A : ほぼ達成できた  
B : 概ね達成できた  
C : やや不十分である  
D : 不十分である

3 目標・評価

① 学力の充実向上(日々の学習、学びの基礎診断に係る支援体制の確立)

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	学習指導の充実	・わかる授業のための授業力向上を推進する。 ・考査前後に教科内の検討会を行う。	・全教科で研究授業の相互参観を行う。 ・定期考査問題を教科内で検討し、50分の考査問題として論述問題等、質・量の検討を行う。 ・教科内で答案の誤答分析を行い、不得意とする分野を洗い出し、授業に反映させる。	B	・12回の研究授業を実施した。また、考査問題検討会が定着しつつあり、授業内容の改善もみられた。	・今後も継続して研究授業、公開授業を行い、教師間で互いの良いところを参考に、わかりやすい授業を充実させていきたい。
		家庭学習の定着	・各考査における欠点数を10%減らす。 ・基礎学力講座のテストの正解率70%を目指す。	・教科間で連携を取り、計画的な週末課題を課す。 ・部活動指導者に、定期考査前の学習時間が確保できるように協力を依頼する。 ・テスト範囲等を生徒に認識させ、計画的に学習への取り組みに指導する。	B	・欠点数は12%減少した。小テストの学習により基礎的な学力の定着が図れている。 ・学びの時間の小テストでは正解率が78%を上回ったが、週末課題等で家庭学習の定着を図る必要がある。	・職員の共通理解を図るため、意識の差を学年単位で小テストへの取り組みを盛り上げ、競争心をもたせることで学習の楽しさを感じられる取り組みを工夫していきたい。
		資格取得の推進	・各科の重点資格と基礎資格の合格率5%増を目指す。 ・ジュニアマイスターのゴールドとシルバー取得者の5%増を目指す。	・全員受験の基礎資格の指導徹底と補習体制の強化を図る。 ・担任や科と連携して資格取得者を増やす。 ・各科の重点資格取得において、ものづくりマイスターを活用した指導の強化を図り、ジュニアマイスター取得者数の増加を目指す。	B	・目標を概ね達成できた資格とできなかった資格がある。 ・資格合格率が資格種類ごとによりばらつきが生じている。 ・ジュニアマイスター取得者数が昨年度45名から85名へと倍増した。	・全員受験基礎資格の指導徹底と補習体制の強化を図る。 ・各科の重点資格取得においては、ものづくりマイスターを活用した指導の強化を図る。 ・担任や科と連携して資格取得者を増やす。
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・教科指導の改善	・全教科でICTを活用した授業展開を実践して生徒の基礎学力向上を図る。 ・全職員が電子黒板を活用した授業ができるようにする。	・電子黒板・学習用PCを活用し、わかりやすい授業に取り組む。 ・各教科で教材作成を行ったデータの共有化を図り、各教科で年間1回のICT活用研究授業を実践する。	C	・電子黒板活用授業はほぼ定着している。 ・学習用PC活用は一部の職員に限られている。 ※今年度は新教育システム・電子黒板の更新対応に時間を割かれ、推進が不十分であった。	・学習用パソコンの実践事例の紹介 ・職員研修を各学期に開催 ・各教科ICT活用研究授業の実践(年1回)

② 生徒指導の徹底(規範意識、挨拶、礼儀、マナーの向上)

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	・基本的生活習慣の確立 ・佐工生としての誇りを持つ ・規範意識を常に保つ ・道路交通法の遵守	・基本的生活習慣を身につけることができるようにする。 ・問題行動の事前予防をする。 ・特別指導件数の0を目指す。 ・交通事故の20%減を目指す。	・定期的な校外巡視を実施して、生徒の様子を観察すると共に、外部からの情報収集を行い指導に役立てていく。 ・遅刻、無断欠席の指導を担任・科と協同で行う。 ・挨拶・服装指導を全職員で行い、より良い生活習慣の確立を目指す。 ・問題行動の事前予防や交通事故防止を集会や講話、文書等を通して強化する。 ・生徒本人だけでなく、家庭や関係機関との連携をすることで多様な指導を実現していく。	A	・今年度、特別指導件数が4件(昨年度3件)と1件増となった。学年の内訳は、1年生2件、2年生1件、3年生が1件であった。 ・交通事故は昨年と比較して増え、12件であった(昨年17件)。いずれも、自転車乗車中の事故であった。	・生徒の様子を日ごろから観察し、気になる生徒は関係職員と情報を共有し早期対応したことが問題行動の事前予防につながった。 ・日々の挨拶・服装指導を行い、生徒の規範意識を高め、落ち着いた学校生活がおくれた。 ・無理な運転による自転車事故が多かったため、交通安全の注意喚起指導と、担任による基本的生活習慣確立を目指した指導を連携させた。また、事故発生時の対応を指導していく必要がある。 ・担任・科・家庭との連携を常に図り、多様な面から生徒を見守ることを継続したい。
教育活動	●いじめ問題への対応	・早期発見、実態把握に向けた全校的な体制の推進 ・予防的教育相談体制の確立	・生徒一人一人が安心して安全に学校生活を送ることができるようにする。 ・学級の雰囲気や、生徒同士の交友関係を円滑にし、一人一人の生徒の居場所を作るようにする。 ・一人一人にとって居心地の良いクラス作りを目指す。	・定期的にいじめアンケートを実施し、情報収集に努めるとともに全校集会やHR等を通じていじめへの啓発活動を徹底する。 ・調査結果をもとに情報交換やケーススタディ等を実施する。 ・常時、生徒が相談できる環境作りを努める。 ・いじめ対策委員会を迅速に開催し、関係機関との連携、早めの対応に努める。	A	・いじめの認知4件、認知2件発生した。早期発見・早期対応ができた。 ・新学期に教育相談週間を設け担任と生徒の意志疎通を図るための面談機会があった。	・認知2件であったが、他にも潜在している可能性がある。いつでも起こりえる危機認識を持ち、アンケートやいじめ防止啓発活動を徹底したい。 ・担任や教育相談係が潜在的なクラスや一人ひとりの生徒状況の把握をするためQ-U検査を取り入れる。

③ 進路指導の充実(満足度の高い進路の実現)

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・将来のビジョンを明確に持たせ、基礎学力や基礎技能の向上を目指す。 ・より高い進路目標の設定に向かい、自己研鑽を行い自らを成長させることを目指す。	・授業や学校行事等に外部講師を招聘した講話や実技指導を通じ、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・自分の成長が見える形になるよう、実施した事・検査結果・資格取得等をポートフォリオ形式でファイリングさせ「目に見える形」で残るようにする。	B	・学びの時間と連携した、学力向上、SPI対策などを実施できた。 ・進路先に応じた学習法を提案し、目標の設定と自己研鑽を促すことができた。	・卒業生を外部講師として招聘し講話や実技指導を充実させていきたい。 ・キャリアパスポートの活用で、実施した事・検査結果・資格取得等をファイリングさせ「目に見える形」で残し指導に役立てたい。
教育活動	○進路指導	・進路希望の達成	・進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成などキャリア教育の推進を図る。 ・就職試験の一次合格率を上げ、進路決定率の年内100%達成を目指す。	・進学補習等で基礎学力向上に努める。 ・1年生職業人インタビュー、2年生インターンシップ、「進路ガイダンス」の実施で、職業観・勤労観の育成を図り自らの可能性を探る。 ・進路指導部と担任の連携を密にして、生徒の能力・適性と希望にあった進路先の情報提供と指導・助言に努める。 ・多くの企業訪問を実施し、確実に求人票を獲得して生徒の選択肢を確保する。 ・面接指導の充実を図る。(集団討議訓練の実施) ・企業訪問報告会を6月、3月に実施する。 ・SPI試験に加え、小テストを1学期に9回実施する。	B	・年度当初の計画は、ほぼ実施することができた。年度末の進路ガイダンスは、臨時休校のため延期をした。 ・就職試験の一次合格率は95.3%と前年比1.1%減少したが、高い結果を残すことが出来た。 ・就職面では、卒業までに希望者全員の内定が決まり、今年度も就職内定率100%を達成することができた。 ・進学面では、大学受験は推薦試験を中心とした合格であった。専門学校は、卒業直前に最後の1名が決定した。	・より満足度の高い進路実現のため、希望者全員の就職試験一次合格を達成したい。そのため、早期からの目標設定と準備・対策に取り組ませ、進路先の詳細情報の提供と希望や能力・適性にあう適切な指導・助言に努めたい。 ・全職員共通理解のもと、就職指導を強化し、基礎学力とコミュニケーション能力の向上及びキャリア教育の充実につなげたい。 ・特別な支援が必要な生徒へは、早期から組織的な取り組みが必要になることが課題である。 ・進学では、受験のみならず、入学後のためにも基礎学力の向上に努める必要がある。

④ 特別教育活動の推進(主体的に活動する力を養う)

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●健康・体づくり	・部活動入部の推進 ・食生活と生活習慣の自己管理	・部活動入部率を100%に近づけ、学校の活性化を図る。 ・健康の保持増進や食の安全に関心をもち、基本的生活習慣の確立を図る。	・部活動PRビデオを活用してより興味をもたせる。また、職員の部活動体験談を通して、積極的に入部するように勧める。 ・「保健だより」を発行し健康面や栄養面の情報を提供する。 ・健康診断結果を通知し治療に努める意識を持たせる。 ・朝食実態調査を活用し食事の大切さを考えさせる。	B	・部活動加入率は、1年生 92.0%、2年生94.2%、3年生93.8%で全体が93.4%であった。昨年より、1.3%減少した。 ・「保健だより」を通じて、健康・栄養面の情報提供ができた。朝食実態調査が未実施のため、食事指導ができなかった。2学期にインフルエンザ発症で学級閉鎖措置をしたが、早期対応で拡大を抑えた。	・新入生向けに部活動PR映像を作成し、部活動加入率の向上に努める。また、9月に加入継続率を調査し、退部者の動向を把握して指導を行う。
教育活動	●心豊かな生徒の育成(心の教育)	・クラス・学年・学校への帰属意識を持たせ、思いやりのある生徒の育成 ・ボランティア活動の推進 ・読書活動の充実	・生徒の状況把握に努め長期欠席や断続欠席者の10%減少を目指す。 ・校内及び学校周辺の清掃活動(多布施川沿いゴミ拾い・草刈り等)の実施。 ・生徒一人当たりの貸出冊数3.0冊以上を目指す。 ・図書館活用の奨励する。	・クラスマッチ、佐工祭等に丸ごと取り組める風土づくりに努める。 ・生徒と会話を密にして生徒の動向を理解し、副担・科長・管理職と連携を取り、早めの対応に努める。 ・家庭訪問等により保護者と連携を図り、三者での話し合いの場を多く持つように努める。 ・奉仕作業の意義と目的を十分に理解させ、自主的・自発的・積極的に参加できるように指導を行う。 ・「図書館だより」「新着図書案内」を随時発行し、情報提供に努める。 ・さまざまな工夫を施し、図書館への来館を促す。	C	・生徒の欠席状況を把握し、不登校や保健室登校の生徒への相談体制を充実させた。欠席者の減少14%と顕著に表れた。 ・普段手が届かない場所を清掃することができた。また、花壇の植え替えを行い校内環境を整備した。	・連続欠席を早期発見し、保健、教育相談と連携した迅速な対応を心掛け指導していきたい。 ・校内では各教科に清掃場所を聞き取り、実施するべきである。 ・まず図書館に生徒が足を運んでくれるような、更なる工夫を施していかなければならない。
教育活動	○グローバル教育の推進	・グローバル社会へ対応できる豊かな国際感覚とコミュニケーション能力の育成	・各教科、各行事を通して、国際感覚を身に付けさせる。 ・順天工業高校(大韓民国)との交流を通して、他国の文化を理解し、国際的視野で日本を見つめることが出来る感覚を養う。	・各教科の授業において、生徒の「グローバルな視点」と「国際的感覚」を育成するための、授業実践を行う。 ・順天工業高校(大韓民国)との交流の際には、全ての生徒が関わりを持てる計画を立案し、十分な準備と事前学習を行い、「国際交流」を行う。	D	・工業部会主催のベトナム海外研修に本校から2名が参加した。しかし、昨今の日韓政府間の関係により大韓民国の順天工業高校からの訪問が延期された。また、ベトナム研修発表会は臨時休校のため中止した。このように、今年度は具体的な取組に乏しく、成果がはっきりしない結果となった。	・今後もコミュニケーションの基本となる言語学習、言語活動の在り方を課題として、継続して取り組んでいながら、実際に交流できる機会を設けていく必要がある。
教育活動	○安全教育	・工業科の実習や課題研究における安全教育の徹底 ・安全点検の徹底	・実習や課題研究において危険防止や安全教育の時間を設ける。 ・3年に一度の実習棟の安全診断を実施する。 ・毎月1回以上校内安全点検を実施。	・授業の中で細部にわたり、生徒だけでなく職員にも安全意識の向上を図る。 ・工場安全診断で指摘された箇所の改善を図ることにより、生徒に5S活動や安全衛生に対する基礎知識と意識を身に付けさせる。	B	・毎月の安全点検や実習時服装確認、実習室整理整頓など、安全教育の徹底を図ることができた。全科で「4S運動」の提示をし、安全第一に対する生徒の意識を高揚させた。また、実習室の不要物の廃棄を行った。	・授業で日頃から安全意識の向上を働きかける。生徒、職員共に安全意識を持って、4S活動や安全衛生の基礎知識と意識高揚に努める。
教育活動	○地域との連携	・ものづくりや部活動をとおした地域との連携	・ものづくりや部活動をとおして、地元小中学生に工業高校の魅力や、興味を喚起する。	・地域の中学生との交流連携を図るために、体験入学時の実習見学と体験を充実していく。 ・「さが桜マラソン」では部活動を中心に協力する。また、文化部等を中心にして、地域の催しや行事に積極的に参加する。	B	・ものづくり体験教室(電気科)やものすごフェスタにて体験会を開催した。 ・近隣小学生に「キュボロ実習」見学を通して、ものづくりの魅力や興味を育成し、地域との連携交流を図った。	・地域の中学生との交流連携を図るために、体験入学時の実習見学と体験を充実していく。 ・文化部を中心に地域の催しや行事に積極的に参加する。
教育活動	○主権者教育	・教科指導を通して基礎知識を学び、クラス討議や生徒会活動に対し積極的に参加する	・公共的な事柄に自ら参画しようとする意味や態度を育てる。	・宿泊研修などの特別活動で、他者と共同作業を通じ自己の意見と他者の意見の合意を図る。 ・模擬裁判を行い、他者との協力的に諸問題を追求し意見合成を図る指導を行う。	B	・外部講師を招聘した模擬授業や生徒会長選挙で、実際の投票手順や器材を使用し政治への興味関心を高めた。	・主権者として社会で自立し、他者と連携・協働しながら社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担うことができる力を身に付けさせたい。
教育活動	○佐賀を誇りに思う教育	・佐賀県のことを学ぶ	・佐賀県の良さを見出し、佐賀を誇りに思い、愛着を持つ生徒を育てる。	・「佐賀語り」を読む時間を確保し、佐賀県の良さを再発見させる。 ・外部講師を招き佐賀の良さについての講演を行う。	B	・本校同窓生および陶磁器の専門家講演を実施した。3年生には「佐賀語り」を活用した授業を実施し、クラス討議を行った。	・「佐賀語り」は年度末に主体的に実施したが、臨時休校のため未実施となった。次年度は全学年での取り組みやグループ討議の時間を確保したい。

⑤ 教育相談の充実（心の教育を大切に）							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	○教育相談の充実	・担任等と相談係との連携 ・スクールカウンセラーの有効活用	・担任等と相談係との連携を図り、生徒の状況把握に努め、適切な対応をする。 ・スクールカウンセラーを有効に活用する。	・教育相談週間を設定し、担任と生徒との面談を実施する。 ・保護者と教職員との連絡を密に行う。 ・スクールカウンセラーと生徒、保護者及び教職員との面談を実施し問題解決を図る。 ・教育相談校内研修を実施し、予防的教育相談を確立する。	B	・不登校傾向や問題を抱えた生徒には、スクールカウンセラーの助言を得ながら、担任・関係職員と連携し共通理解を深め適切に対処できた。 ・本校スクールカウンセラーによる職員研修会を実施し、特別支援教育についての理解を深めることができた。	・今年度も継続して、スクールカウンセラーや養護教諭などの連携や教育相談週間やいじめアンケートを活用して、早期発見に努めたい。 ・担任や教育相談担当が潜在的なクラスの状態や一人ひとりの生徒状況を把握出来るように次年度もQ-U検査を1・2年生に取り入れる。

⑥ 人権・同和教育の推進(人権尊重の精神と態度を養う)							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	○人権・同和教育の推進・支援	・校内からあらゆる差別や人権侵害をなくす取り組みの実践	・生徒一人ひとりがあらゆる差別や人権侵害を許さないという態度を育てる。	・学期ごとに職員同士での学習会を行い、差別や人権侵害を許さない意識を職員が持ち、生徒の指導にあたる。 ・外部講師を招聘し生徒・職員の人権意識を高める。	B	・年間指導計画通りの授業・講演会・研修会を通して、生徒・教職員の「人権」意識が高まった。また、「差別を見抜く気持ち」、「差別を許さない態度」が学校生活の随所で見られた。	・進路保障HRは、学年に応じた内容であったため、真剣に考え、「差別」を見抜く目を養うことが出来た。 ・「自他を認め合う社会」について外部講師による講演を実施した。生徒・職員が各種研修会に参加し、人権意識の向上に繋がった。

⑦ 学校運営の改善							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・教職員の健全な勤務時間の適正化	・学校行事精選、校務の整理を推進する。 ・会議内容の明確化、資料の事前配布により会議時間の削減を図る。 ・部活動実施計画に基づく時間外勤務時間の軽減 ・年休消化率の向上	・現状に即した取り組みを検証し、常に校務を見直す。 ・共有フォルダを利用し、様式・業務データの共有化を行い、効率的な業務遂行に努める。 ・部活動の実施計画と休日を確認し、週休日勤務は可能な限り振休を与える。 ・年休を取得しやすいような事務手続きを構築する。	A	・職員会議を全て勤務時間内に終了した。簡素な報告や議題を朝礼や直接職員会議に諮ることで、5回の運営委員会を中止した。 ・年休取得手続きを簡易化し、取得平均が12日と年々増加傾向となった。 ・夏休みに学校閉庁日を設け、職員が一斉に休める日を設けた。	・更なる会議内容の精選をする。 ・部活動に対する意識改革や活動の効率化を図る。 ・週休日勤務の振替を積極的に取得するようにする。
		・事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進	・事務職員の専門性を生かし、経営的視点をもちながら学校運営に積極的に参画する。	・職員朝礼や業務上の情報共有を行い、業務の進捗等を把握して職員間のフォロー体制を強化する。		・総務部・特活指導部・情報管理部に事務的立場で教員と協力し円滑な学校運営に参画した。	・風通しの良い事務室の職場環境を作り、教員と連絡調整を密にして、学校運営に参画する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校経営	○学校の経営方針	・学校経営ビジョン・本年度の重点目標の周知	・学校教育目標の周知徹底する。	・教育目標や重点項目について職員の情報発信の意識を高め、タイムリーで積極的な情報発信に努める。	B	・役員会や各種行事、学校HPを通じて経営方針の周知を図ったので、保護者アンケートによる周知の状況は、4段階で3.16であり、昨年度の3.14から若干向上した。	・今後も学校HP、広報誌、役員会や総会等様々な機会を利用して周知を図っていく。
教育活動	○教育後援会活動の活性化	・後援会総会・役員会・評議員会等における保護者の出席率の向上	・教育後援会総会において45%以上の出席率を目指す。	・総会開催を保護者要望の週休日に実施して出席率の向上を目指す。 ・総会時にICT活用授業参観や担任懇談会を実施し、保護者の参加意欲の向上を図る。 ・教育後援会役員会と評議員会の協議や業務内容を精選する。	B	・教育後援会総会(出席率は28%)と低調であった。原因は、アバンセ駐車場からの移動やゴールデンウィークの最中であったこと、また保護者への周知の方法などが考えられる。	・今年の役員会は、保護者の負担軽減のため、総会、文化祭バザー、3年生を送る会の直前の月のみに実施した。来年度の総会は、5月17日(日)に計画。進路指導部の3年保護者会と連携し、参加者の増加をめざす。
学校経営	○接遇・応対	・事務室窓口に来られる来客者・保護者等に対する窓口対応 ・事務室職員の電話対応	・窓口に来られる来客者・保護者等に対して親切かつ的確丁寧に対応する。 ・電話対応を迅速・丁寧・親切に行い記録を残す。	・来客者には学校に対する不快感・不信感を与えないように臨機応変に対応する。 ・電話対応は、内容等を明確に理解し、メモを取り、不快感を与えないよう迅速丁寧に対応する。また、苦情の電話には特に真摯な態度で接し、内容を各主任・教頭に連絡し連携を図りながら、迅速な対応に心掛ける。	B	・窓口や電話対応では全員で丁寧な対応を心掛けた。また、問い合わせに対しては、関係職員への連絡だけでなく、管理職への報告が必要な事例もあり、対応が遅れた場面があった。	・問い合わせ連絡を担当職員に正確に伝え、早期対応についての事後確認を確実に行う。 ・生徒に関する通報・連絡時には、関係職員及び管理職へも報告を行い、学校として対応できる体制づくりを図る。

4 本年度のまとめ・次年度の取組							
<p>○学校教育目標を達成すべく、本年度の重点目標を定め、各評価項目について取り組んできたが、昨年同様「概ね達成できた」と考える。  ○本年度も「家庭学習の定着」の項目ではC評価であった。工業技術者となるためには、自ら学ぶ姿勢を身につけさせることが大切でありことから、次年度以降も改めて取り組みを充実させたい。  ○次年度からの学科改編により6学科6クラス導入の初年度となるため、移行期間の対応を円滑に実施して、将来の進路を見据えた具体的で興味・関心の高まる教育課程を編成し、工業教育の活性化を図る。</p>							

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目